

## 沖縄観光とレンタカー

全国で唯一、鉄道のない沖縄県において、レンタカーは観光客やビジネス客の主要な移動手段となっています。ただ、直近のレンタカー不足に加えて「若者のクルマ離れ」というトレンドもあり、レンタカーに依存しない交通体系の構築が求められてきています。

個人旅行やビジネスの往来が活発になるにつれ、沖縄観光の主演としてレンタカーの存在感は増えています。沖縄総合事務局陸運事務所によると、2001年度に9422台だった県内のレンタカー車両数は、沖縄を訪れる観光客数が1000万人を超えた18年度には4万1249台と実に4倍超に増加しています。

ただ、新型コロナウイルス対策に伴う観光客の減少により、レンタカーの稼働も激減しました。事業者は台数調整を余儀なくされ、21年3月末時点の県内レンタカー車両数は3万2467台まで減っています。世界的な流通の混乱も追い打ちをかけています。半導体の供給不足などで新車の生産が滞り、レンタカー事業者が増車しようにも納車が長引く状況があります。レンタカーの供給不足と料金高騰が観光客受け入れの制約となり、沖縄観光全体の回復の足を引っ張ってしまうのではないかとこの危惧が観光業界に広がっています。

レンタカーに代わる移動手段が弱い沖縄の現状は、中長期的にも観光にとってマイナスだという指摘もあります。沖縄振興開発金融公庫と日本交通公社がZ世代（22～25歳）とミレニアル世代（26～40歳）に調査したところ、若い世代は「県内交通が不便」「レンタカー利用に抵抗がある・運転が苦手」を選択する割合が高いといい、交通事情を敬遠して沖縄への再訪意向が弱くなる傾向があるようです。

3年ぶりに行動制限がなかった今年のゴールデンウィークがレンタカー不足に見舞われる中で、JTB沖縄と北部観光バス（名護市）が連携し、無料シャトルバスを期間限定で運行するといった取り組みがありました。新たな移動手段の提供につなげようという試みは、ポストコロナの沖縄観光にとって重要なテーマの一つとなりそうです。

琉球新報社 編集局政経グループ長



行動制限に緩和に伴い予約が回復しているレンタカー会社



沖縄観光の移動手段として存在感を増すレンタカー